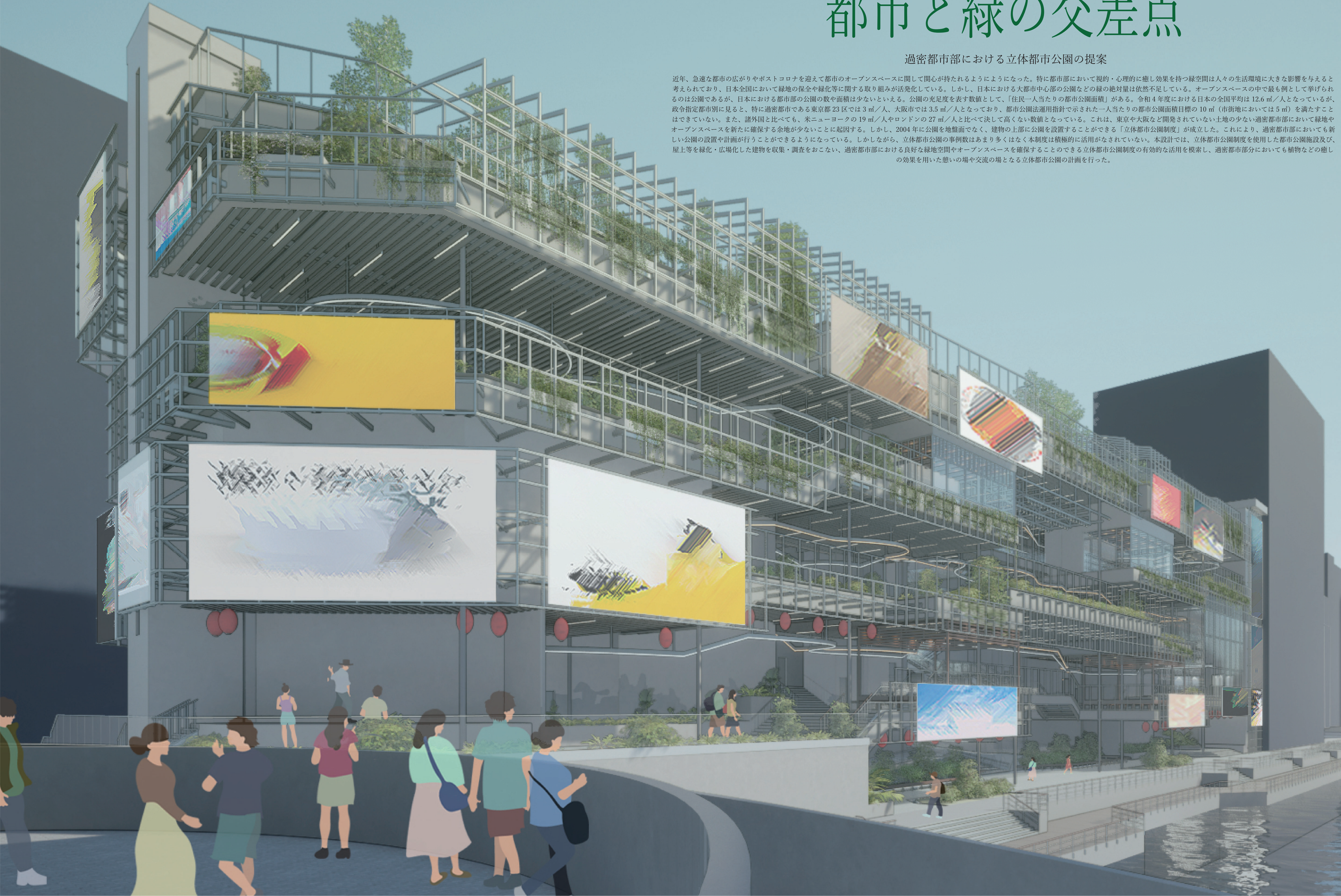


都市と緑の交差点

過密都市部における立体都市公園の提案

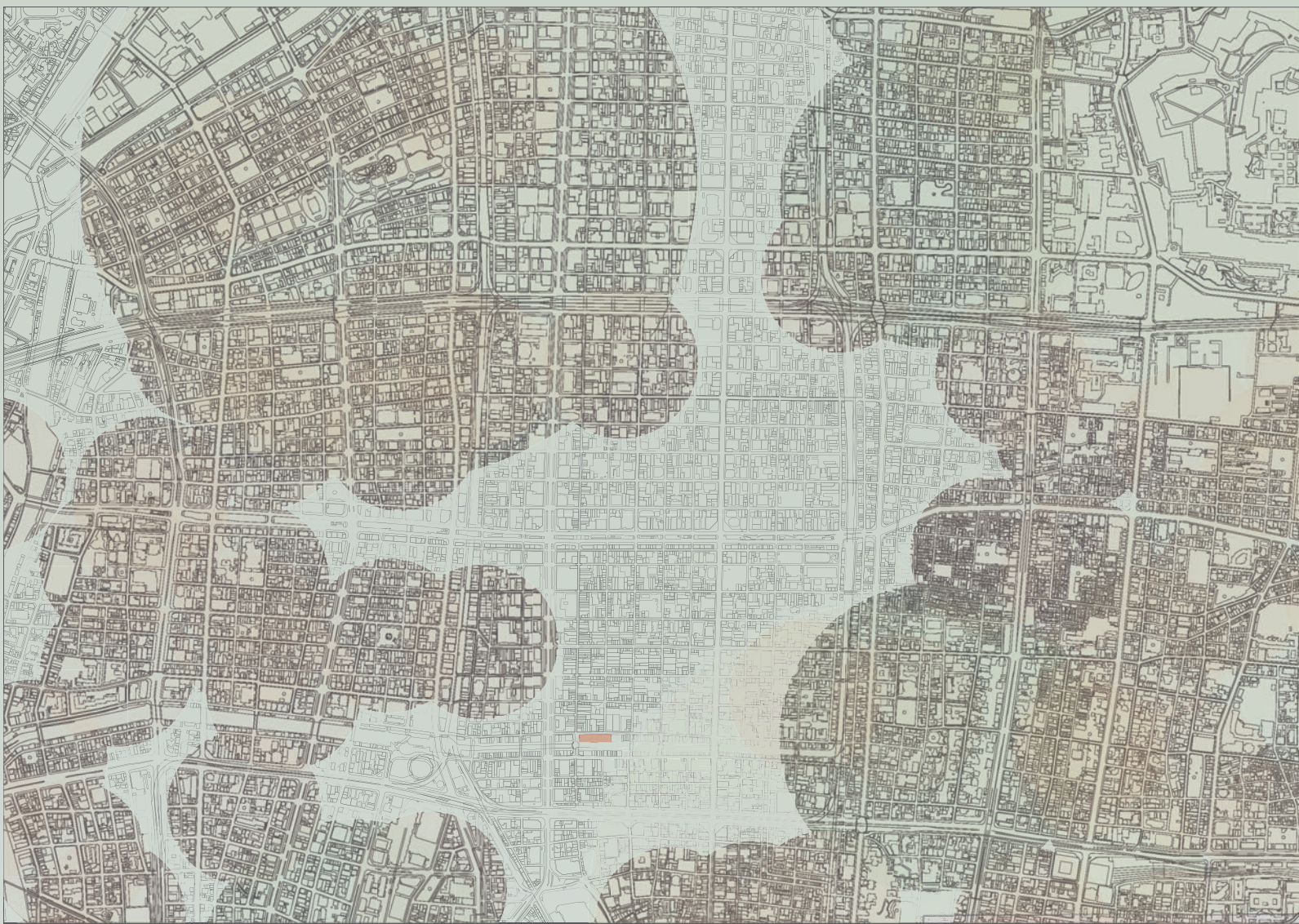
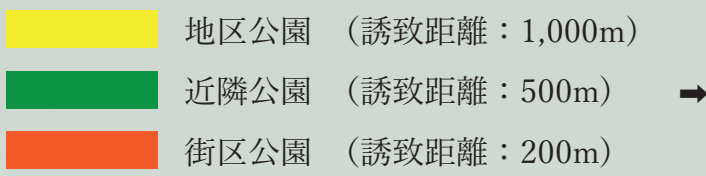
近年、急速な都市の広がりやポストコロナを迎えて都市のオープンスペースに関して関心が高まるようになった。特に都市部において視的・心理的に癒し効果を持つ緑空間は人々の生活環境に大きな影響を与えると考えられており、日本全国において緑地の保全や緑化等に関する取り組みが活発化している。しかし、日本における大都市中心部の公園などの緑の絶対量は依然不足している。オープンスペースの中で最も例として挙げられるのは公園であるが、日本における都市部の公園の数や面積は少ないといえる。公園の充足度を表す数値として、「住民一人当たりの都市公園面積」がある。令和4年度における日本の全国平均は12.6㎡/人となっているが、政令指定都市別に見ると、特に過密都市である東京都23区では3㎡/人、大阪市では3.5㎡/人となっており、都市公園法運用指針で示された一人当たりの都市公園面積目標の10㎡（市街地においては5㎡）を満たすことはできていない。また、諸外国と比べても、米ニューヨークの19㎡/人やロンドンの27㎡/人と比べて決して高くない数値となっている。これは、東京や大阪など開発されていない土地の少ない過密都市部において緑地やオープンスペースを新たに確保する余地が少ないことに起因する。しかし、2004年に公園を地盤面ではなく、建物の上部に公園を設置することができる「立体都市公園制度」が成立した。これにより、過密都市部においても新しい公園の設置や計画を行うことができるようになっている。しかしながら、立体都市公園の事例数はあまり多くはなく本制度は積極的に活用がなされていない。本設計では、立体都市公園制度を使用した都市公園施設及び、屋上等を緑化・広場化した建物を取集・調査をおこない、過密都市部における良好な緑地空間やオープンスペースを確保することのできる立体都市公園制度の有効的な活用を模索し、過密都市部分においても植物などの癒しの効果を用いた憩いの場や交流の場となる立体都市公園の計画を行った。



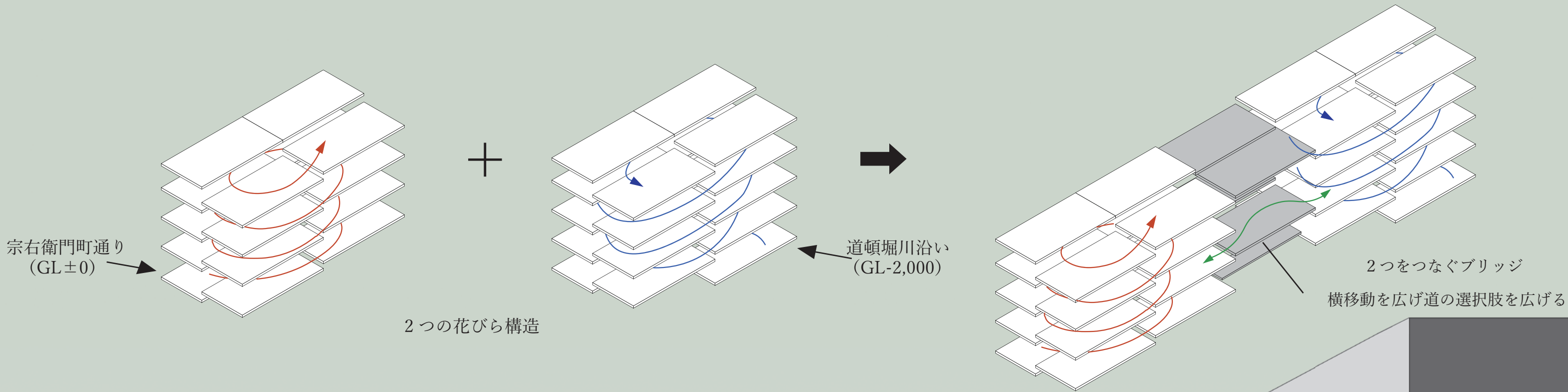
新たな立休都市公園の計画地としては、大阪市の道頓堀付近の敷地を選定した。大阪市を選定した理由としては、大阪府が1人あたりの都市公園面積が6.4㎡と47都道府県の中で最も低く、大阪市においては政令指定都市の中でも1人当たり3.5㎡と東京23区の3㎡を除いて最も低い水準となっているからである。また、大阪市の中でも中央区は1人あたりの都市公園面積が10.67㎡となっているが、これは大阪城公園が含まれていることが大きく影響しており、大阪城公園を除いた場合、1人あたりの都市公園面積は1.27㎡となり、大阪市の中でも特に低い値となる。また、大阪府北区の心斎橋付近は下図からわかるように公園の全く存在しない範囲が存在しているなど、大阪府の中で最も公園等の少ない地域である。その中の道頓堀は大阪を代表する商業地であり、地元民のみならず多くの観光客も訪れる場所である。それ故に多くの商業施設や飲食店が密集している。しかしながら、公園などのオープンスペースが付近に存在しないため、訪れる人々が休息をとる場や交流をとる場が不足している。これらの問題を解決するために、既存の過密な都市部においても緑地やオープンスペースを確保することである「立休都市公園制度」を活用し、都市における敷地の有効利用と人々が憩うことのできる緑地・オープンスペースの確保という相反する要素の共存を目指す。

一人当たりの都市公園面積																
政令指定都市 / 年度	R04	R03	R02	R01	H30	H29	H27	H26	H25	H24	H23	H22	H20	H19	H18	H15
東京都 (23 区)	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3.1	3	3	3	3	3
大阪市	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.6	3.5	3.5	3.5	3.5	3.8	3.5	3.5	3.5	3.5

用途：公園			
敷地：〒542-0084 大阪府大阪市中央区 宗右衛門町 7-2			
構造：鉄骨造			
敷地面積：2,568 m ²	6 階床面積：1,853 m ²		
建築面積：2,239 m ²	5 階床面積：1,151 m ²		
延床面積：8,824 m ²	4 階床面積：1,427 m ²		
公園面積：1,968 m ²	3 階床面積：1,514 m ²		
公園部緑化面積：810 m ²	2 階床面積：1,210 m ²		
	1 階床面積：1,362 m ²		
	川沿階床面積：307 m ²		



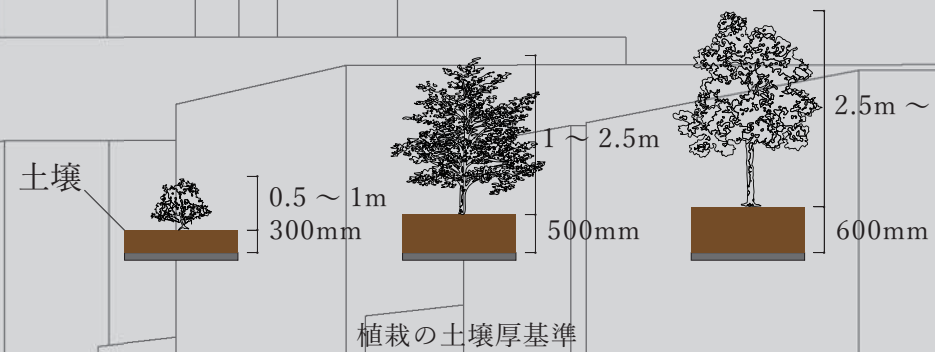
立体的都市公園の設計において重要となるアプローチ計画では、訪れた人々が地上部分との縁が切れた垂直性の高いアプローチではなく、自然と上部へと向かうことのできるアプローチとすることが重要である。本計画では、スキップフロア方式で少しずつ上部へと登っていく花びら構造を採用している。この構造により、宗右衛門町通と道頓堀川沿いという異なるGLが存在する本敷地において、全てのGLに接地し、異なるGLにいる人々が無理なく自然と立体的都市公園へアプローチできるように計画を行っている。



都市における効率的な移動方法として一般的には垂直性の高い縦方向の移動が多く採用されており、道頓堀においても多くの建物が垂直性の高い移動方法が多く採用されている。これは、都市の中の限られた空間を友好に活用するためであり縦方向の移動はエレベーターやエスカレーターといった設備を利用することで効率的に行うことができるが、移動の自由度は制限されてしまうこととなる。本計画では、訪れる人々の移動にゆとりを感じさせる為に横移動を重視した設計を行っている。

具体的に、は、スリップフロアを横長のスラブで構成しており、訪れた人が自然と横移動を意識することができるようになっている。また、異なるフロア高さの花びら構造をブリッジでつなぐような形にすることで、横移動の選択肢が増え、訪れた人が自由に道を選択し自分のペースで進むことができるように計画を行っている。

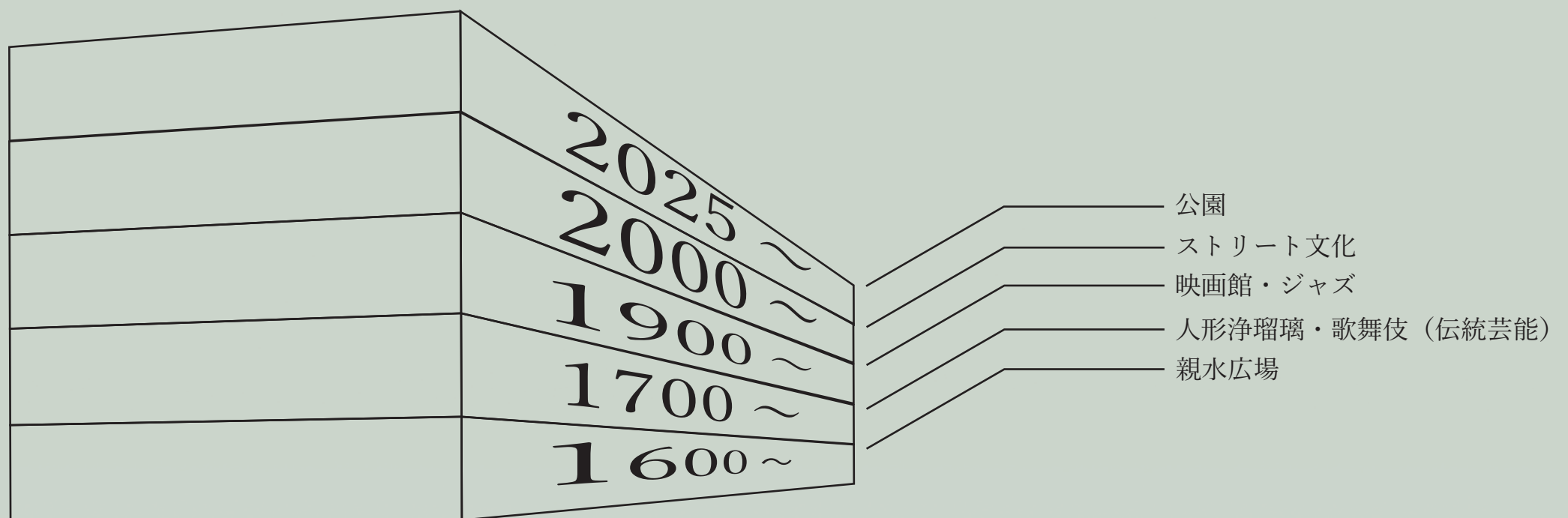
建物全体が訪れた人にとって癒しの空間となるように建物全体に植栽の計画を行っている。
 のある新たな道頓堀の景観を創出するため、道頓堀川に面する南面に植栽を多く計画。
 栽の選定としては基本的な耐風性・耐陰性・浅根性に配慮を行っている。
 上、建案面の配慮としては、低層階の植栽部分には太陽光や雨などが差し込むように、階高を高く計画したり、上階を
 ックさせるなどといった配慮を行っている。また、植栽及び施設内の半屋外空間に風が入り込むよう、フェンス
 ヲワイヤーメッシュ素材のウェブネットを使用。同じく建物外殻のグリッドにもウェブネットを使用することで、壁面緑
 ユニットから育つツタがウェブネットを通じて建物を緑が包み込むように計画を行った。



コンセプト

過密都市における新しい憩いの緑地の確保 × 道頓堀のエンターテインメント文化の発信

道頓堀は、大阪を代表するエンターティメントの中心地であり、長い歴史とともに食い倒れ文化、芸能、ジャズ音楽、ストリートアートなど、多岐にわたる豊かな文化を有している。本計画では、これらの歴史と文化を尊重し、それらをさらに広めることを目的とする。具体的には、上部の公園では緑地とオープンスペースを確保し自然と触れ合うことのできる憩いの場の提供を行い、その公園へ至るまでのアプローチに、道頓堀のエンターティメント文化の歴史を基に様々なステージや余白を計画し、道頓堀の歴史と文化の体験・発信をすることのできる施設の計画を行う。



道頓堀 川面舞台 2022「南地大和屋へらへら踊り」

道頓堀リバーフェスティバルの一環で、敷地東側の相合橋の特設ステージで行われた。2016年から開催されており、この他にも道頓堀で生まれた日本舞踊「上方舞 山村流」や文楽などの伝統芸能のほか、OSK 日本歌劇団や道頓堀で活動しているお笑い芸人、アイドルなど 10 組によるパフォーマンス、ライブステージが披露された。

画像引用：なんば経済新聞、「道頓堀で「道頓堀川面舞台」 日本舞踊や文楽、演歌など披露」.2022,11,14.



大阪・道頓堀の演劇の殿堂「大阪松竹座」

江戸時代から大小の劇場が並ぶ「日本一の芝居町」とうたわれた道頓堀において、1世紀の間、エンターテインメントの発信拠点であり続けた松竹座。開場当初は国内外アーティストの実演劇場も兼ねたが、戦後は映画の上映にほぼ専念し、平成6年までは映画の封切館だった

画像引用：産経新聞、「道頓堀の松竹座が開場 100 年 「芝居町」の守り手が見た 1 世紀」.2023,05,02.



とんぼりリバージャズポート

ジャズの生演奏を聴きながら、大阪ミナミを道頓堀川から眺める約40分の観光遊覧船が常時運行されており、OSAKA 100 JAZZ FESTIVAL 2022、『道頓堀他にも、ウェスト JAZZ ストリート』などといったジャズシティ大阪をテーマにしたイベントが多く行われており、『道頓堀ウェスト JAZZ ストリート』では商店街の店舗などでゲリラ的にジャズの演奏を行っている。

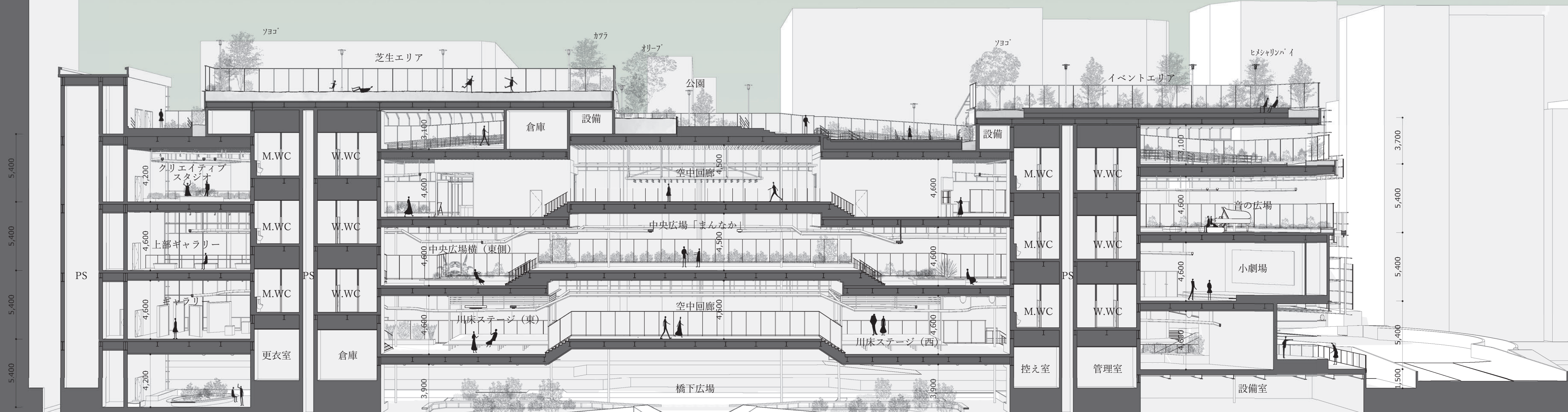
画像引用：大阪観光局，大阪公式観光情報サイト，とんぼりリバー ज्याズボート



とんぼり STREET FESTA

2015 年からとんぼりリバーウォークで定期的に開催されているストリートライブフェス、主に大阪を拠点に活躍する若手ミュージシャン等を中心にした音楽イベント。この他にも、アイドルイベントや道頓堀 ART STREET ではとんぼりリバーウォーク沿いに多くのグラフィティアートが並ぶなど、路上を拠点としたストリート文化の発信が強く行われている。

画像引用：大阪中央区オフィシャルサイト，地域情報発信ポータルサイト・とんぼり STREET FESTA



C-C' 断面图 1:200



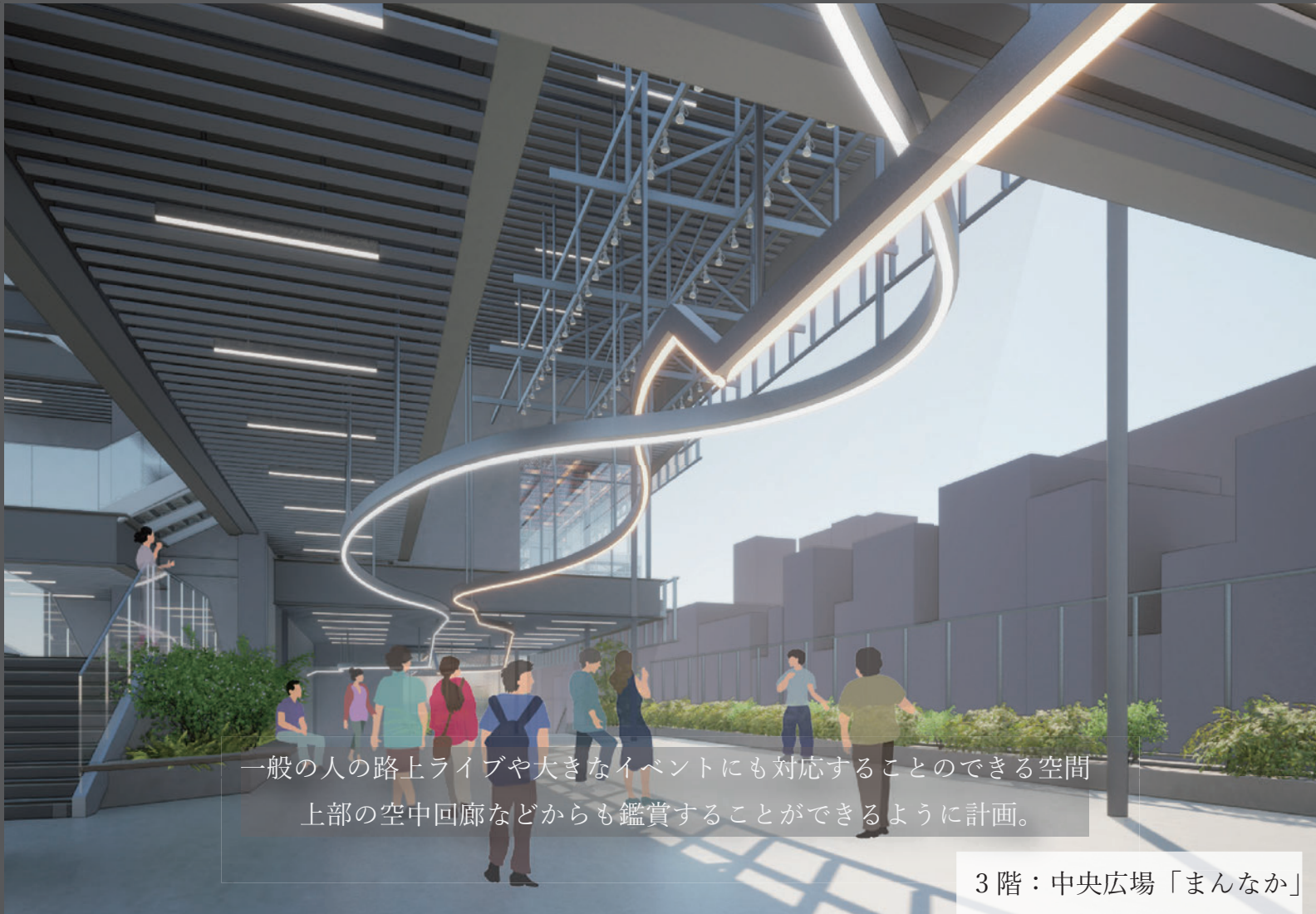
1階：川床ステージ（西）



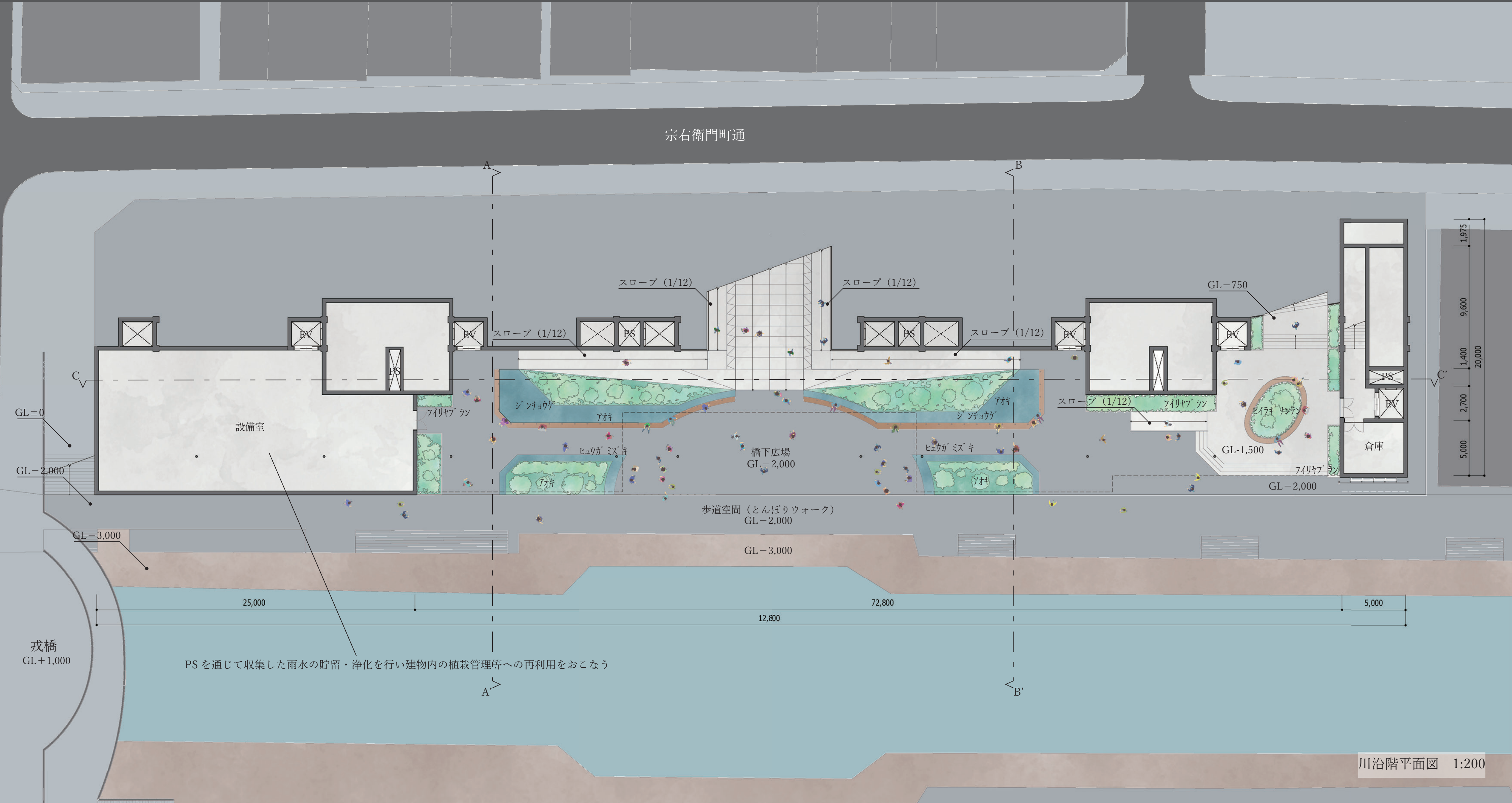
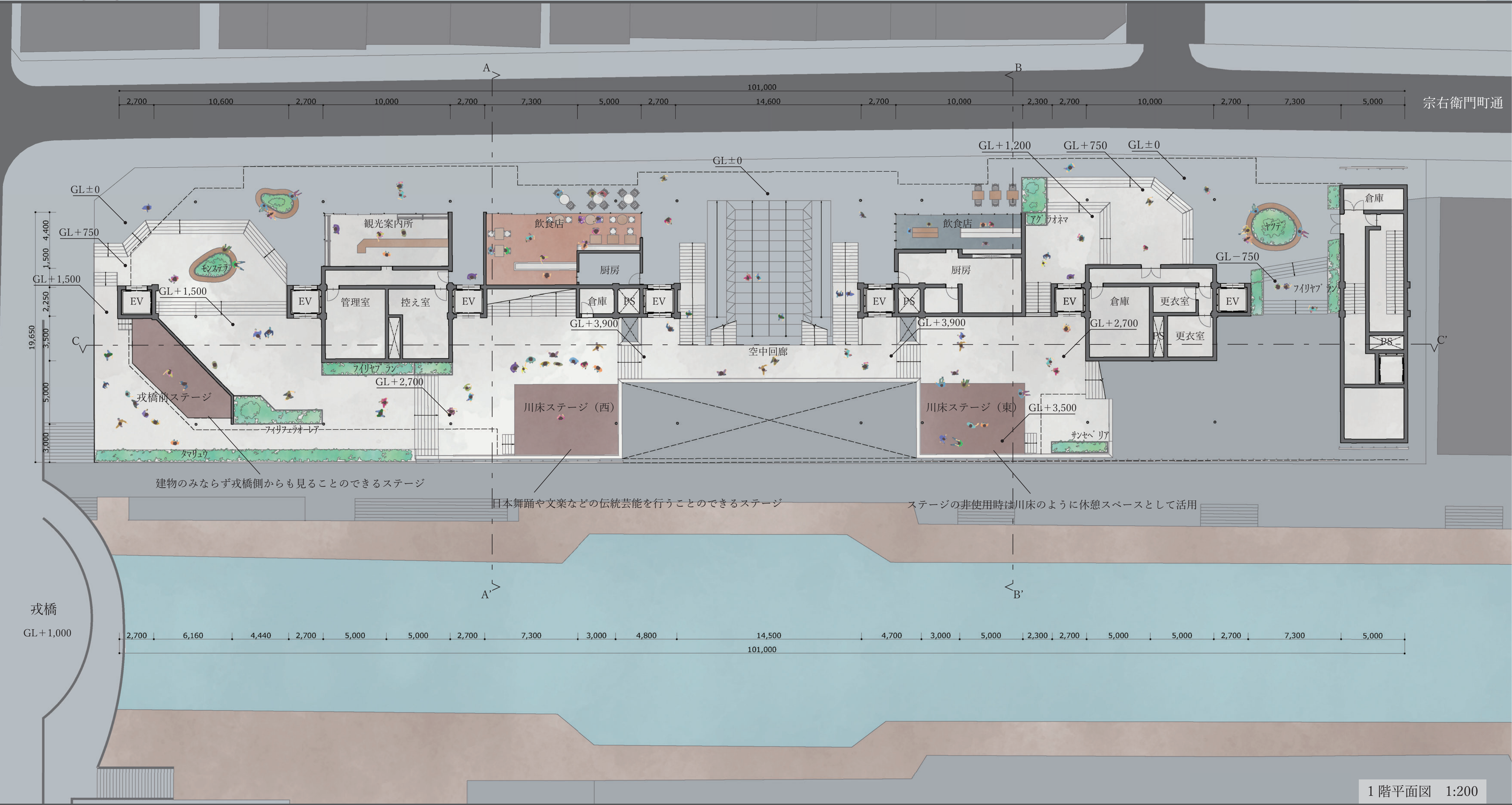
2階：小劇場

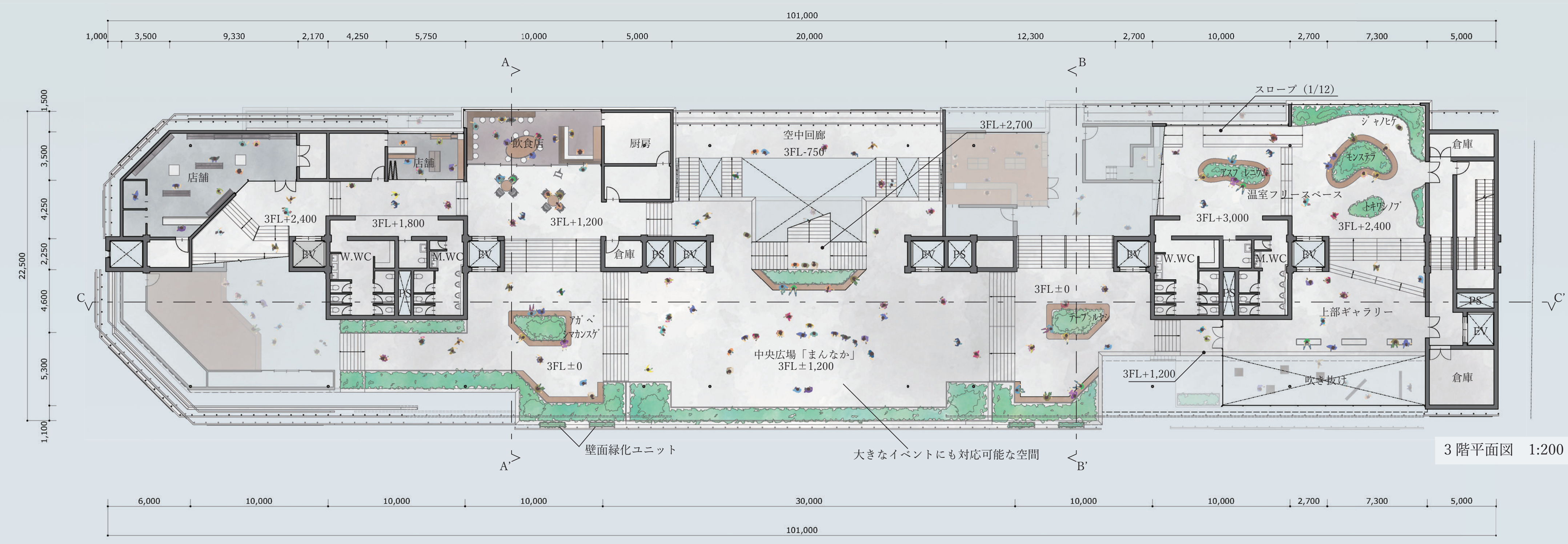
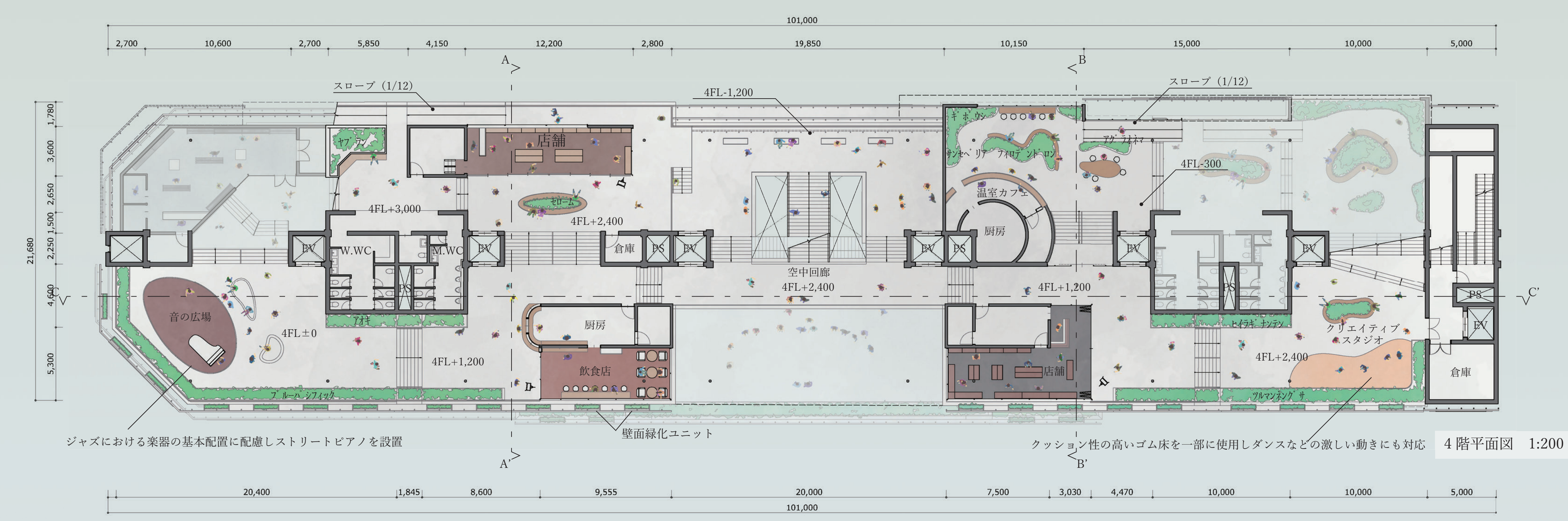
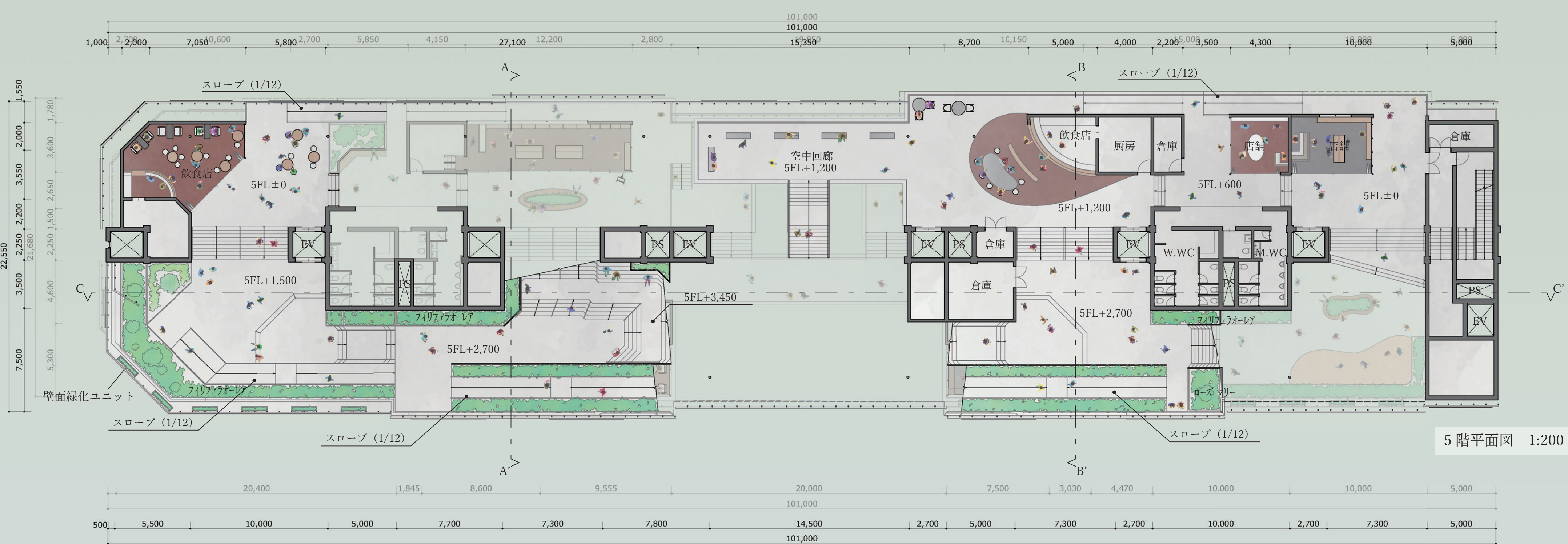
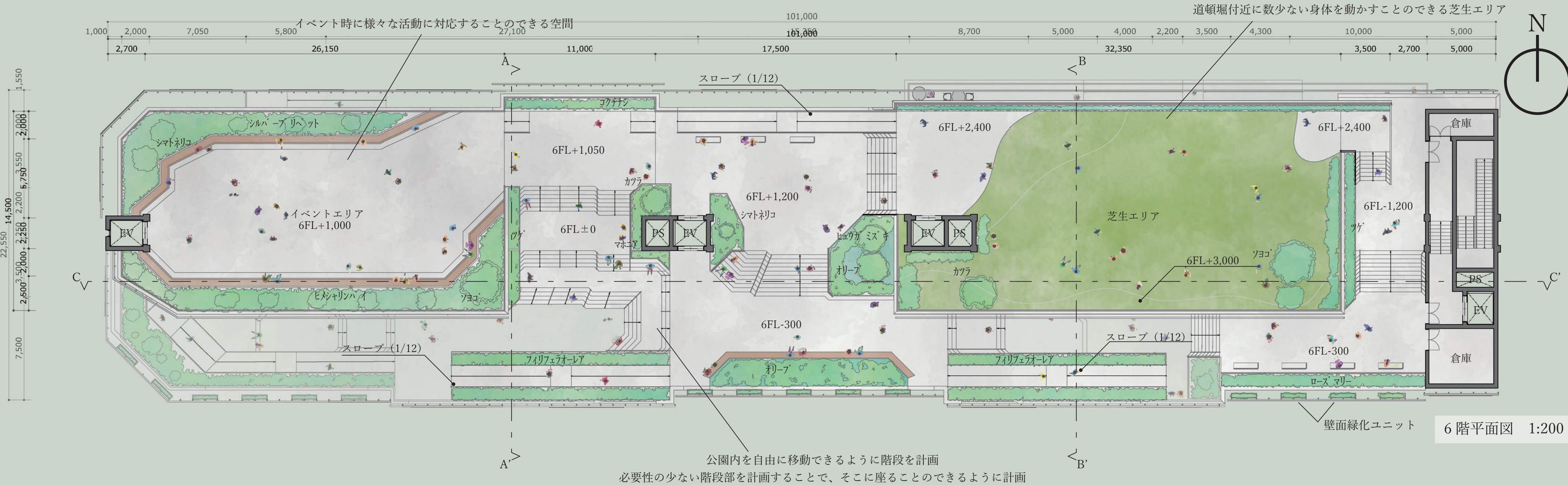


階：音の広場



3階：中央広場「まんなか」







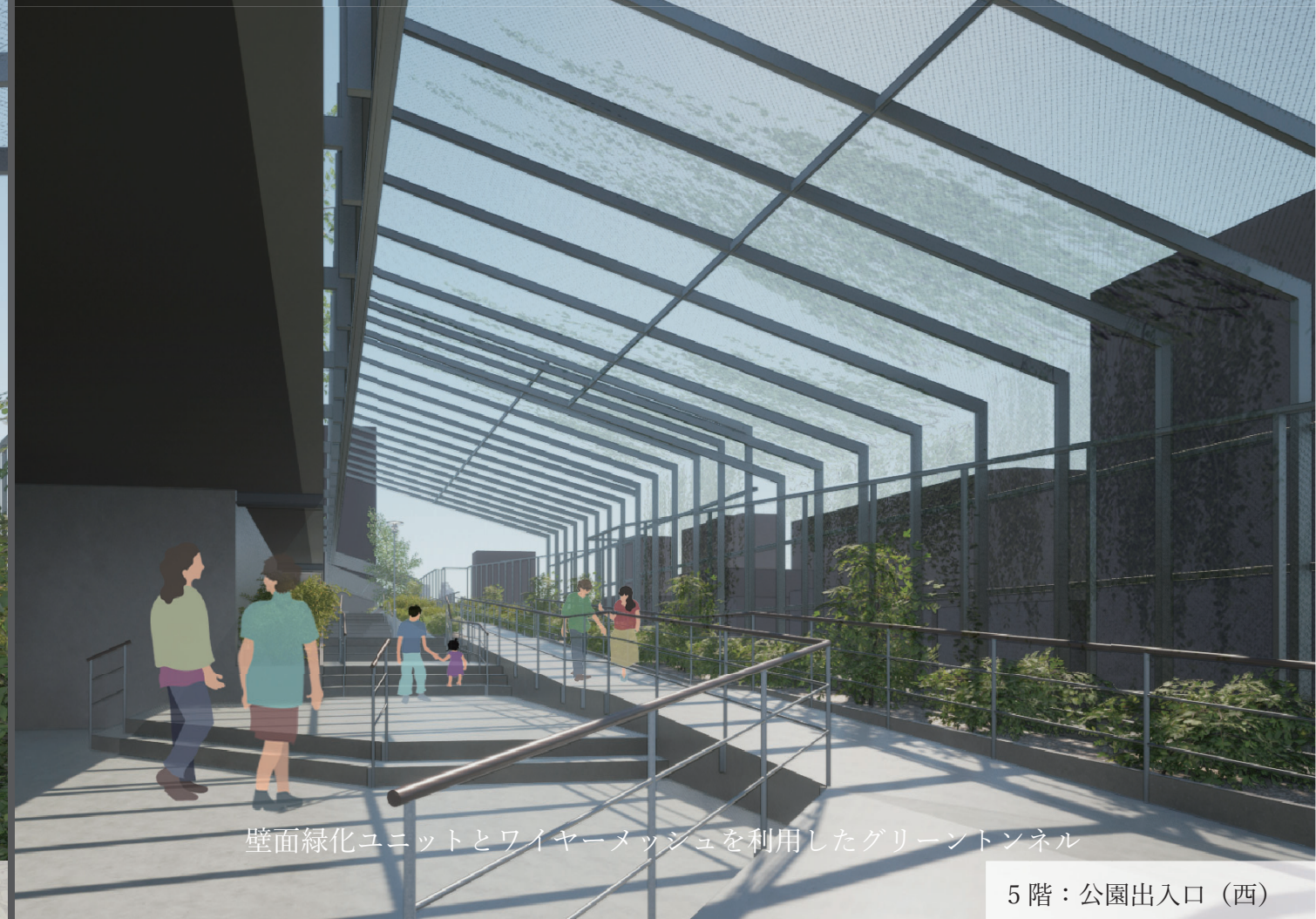
イベント等にも対応することが可能なベンチスペース
樹木が周囲の環境と緩やかな壁を作り、訪れた人に憩いの時間を与える。

6階：公園部芝生エリア



多様な植物を利用した道頓堀の天空公園
フロア差を利用して多様な空間を作り訪れた人が落ち着ける場を提供する。

5階：公園部中心エリア



壁面緑化ユニットとワイヤーメッシュを利用したグリーンストンネル

5階：公園出入口（西）



一部をゴム床としたこの広場は子供たちの遊び場としてや
ダンスなどの激しい活動の練習を行う場となるように計画。

4階：クリエイティブ
スタジオ



激しい雨天時などでも、人々が憩うことのできる温室スペース
北側採光のため、耐陰性の強い植物を選定している。

4階：温室カフェ



3階部分の店舗イメージ
アパレルショップを想定し、公園までのアプローチに使用されている照明を
意識した店舗内装

3階：店舗（西）



道頓堀のエンターテイメントの歴史の展示や
地元アーティスト等の作品の展示を行うギャラリー

2階：ギャラリー



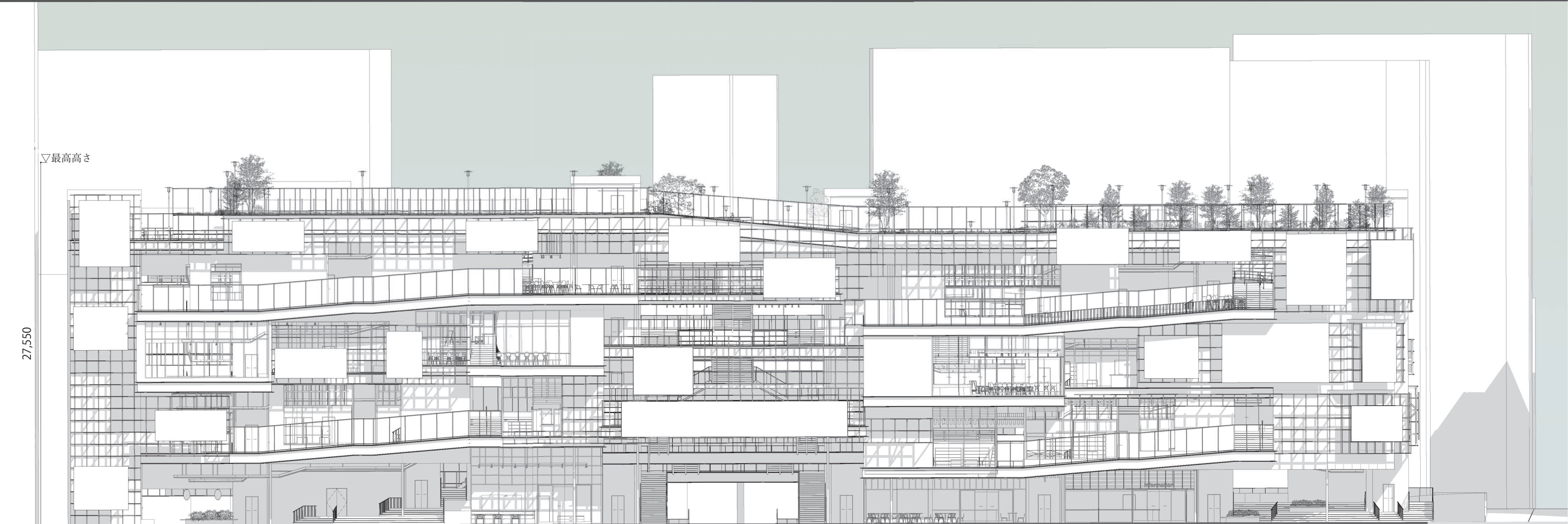
2階部分の店舗イメージ
川床ステージと雰囲気とを合わせるために木材を内装に使用

2階：店舗（西）

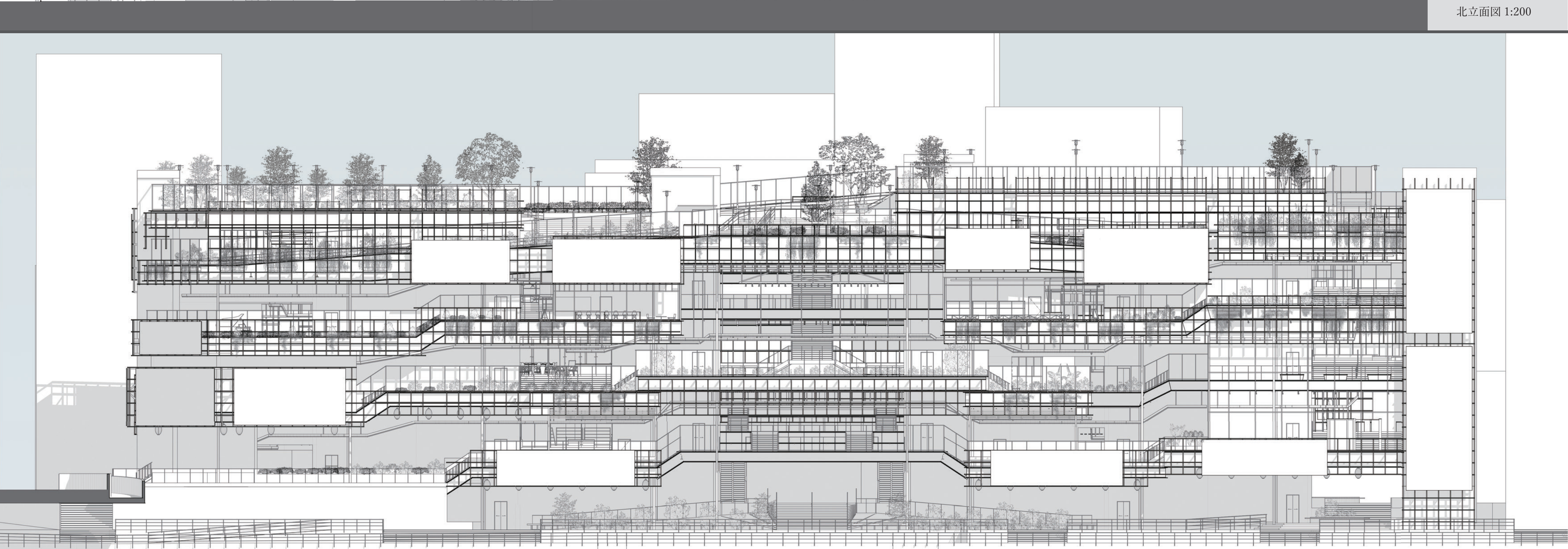


2階部分の飲食店イメージ
道頓堀の食い倒れ文化を意識し、様々な飲食店を施設に点在させ
各店舗ごとに雰囲気異なるように計画。

2階：カフェ



北立面図 1:200



南立面図 1:200